



会社を守る！ ドラレコ活用法

社内安全教育のススメ



運送事業者にとって輸送の安全確保は最優先課題です。もし事故を起こしてしまうと、会社資産の損失や荷主企業からの信頼失墜など、さまざまな経営リスクがもたらされます。

そのようなリスクを避け安全運行を徹底させるひとつのツールとして、運輸・輸送業界ではドライブレコーダー（以下、ドラレコ）の導入が進んでいます。しかし、ドラレコを導入し大量の映像データを蓄積しているにもかかわらず、それを「事故発生時の記録映像」としてしか利用していない企業が多いのも事実です。輸送の安全を守るために、「記録映像」としてだけでなく「安全教育の教材」としても利用していきましょう。ドラレコを有効活用していくことが、会社を守り、ドライバーも守っていくのです。

ドラレコの役割は「記録」と「共有」

運転状況を自転車からの視点で録画するドラレコ。記録された映像は、万一の事故の際に過失割合の証明に役立つほか、社内で映像を共有した安全教育の教材としても活用できます。

記録

効果

- ・事故の際、適切な運転をした自社ドライバーを事故の責任から守る
- ・映像で状況が見えるため、事故後の処理が的確かつスムーズになる

共有

効果

- ・ヒヤリハット映像を社内で共有することで、安全意識が向上
- ・集団指導・個別指導に活用し、良いコミュニケーションのきっかけになる

ドラレコはドライバーを“監視”するものではなく、“守る”もの

重大事故を起こせば相手の尊い命を奪い、当然ドライバーには重い処分・罰則が科せられます。また運送事業者は、事業停止などの厳しい処分を受けることになり、荷主企業からの信頼、社会的な信用を失い、経営に重大な影響を及ぼすでしょう。

安全確保に向けた取り組みは、運送事業者にとって最も重要であり、その一助となるのがドラレコです。ドラレコの映像を活用

した安全教育は、事故による経営リスクを低減し、会社を守ります。しかし、ドラレコの導入はドライバーにとって“監視”されているという気持ちにさせるものです。事業者の皆さんは、万一の事故の際にドラレコの映像が“自分の運転の正しさを証明してくれ、守ってくれるもの”ということを伝え、ドライバーの理解を促しましょう。下記がドラレコ活用の手順になります。

ドラレコ活用の手順

STEP 1

データ収集

記録された映像をパソコンなどに保存する

STEP 4

フォロー

定期的に振り返り
事故件数などの推移を確認する

STEP 2

データ分析

個人・組織の傾向を把握する

STEP 3

講習

映像を活用した安全講習などを行う

効果を検証

STEP 4が終わった後、必ず全体の振り返りを行い、うまくいかなかった部分の改善を図りましょう。これを毎回繰り返すことで、安全意識向上により効果が発揮されます。

効果を検証し、繰り返し実施することで、
ドライバーの安全意識が高まり事故削減につながる。

STEP 1 データ収集：まずは録画しすぎない設定に

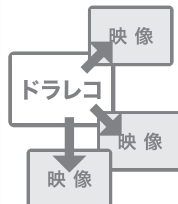
ドラレコは走行中の映像を常時録画し続けるものや、急ブレーキや衝突など大きな動きがあった前後の運転状況を録画するものなど、機種により性能はさまざま。映像データを集める際、録画したデータが多いと分析の手間がかかるため、最初はドラレコの録画設定を「映像データがそれほど多く記録されないようにすることが、効率的に活用するためのポイントです。」

よくある落とし穴

・不要な映像が多く、データがたまり過ぎてしまう ・たまり過ぎて、結局見ないままになる

有効活用のための実践例

・録画設定は、記録しすぎない設定から始め、少しずつ各種データがとれるように調節。
・誰のデータをチェックするのか、またチェックはいつするのかを絞っておく。例えば「新人ドライバー」「事故経験者」は「特定日から2週間チェック」など対象者と期間を決める。



STEP 2 データ分析：項目別に整理して分類を

まずは「道路形状別※1」に映像を分類し、会議や研修時に活用できるよう整理しておくとうまいでしょう。慣れてきたら、分析する台数や期間を広げたり、分類（走行方向※2や事故類型※3など）を詳しくしたりして、より細かくリスク分析を行いましょう。

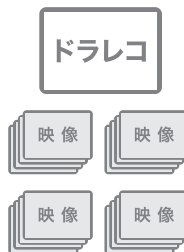
※1: 信号のある交差点 / 信号のない交差点 / 交差点付近 / 直線 / カーブなど ※2: 前進 / 右折 / 後退など ※3: 人対車両 / 正面衝突 / 追突など

よくある落とし穴

・“なんとなく危なそう”な映像を探している ・映像を集めただけで安心して終わっている

有効活用のための実践例

・映像をドライバーごとに道路形状別や走行方向、事故類型などで分類する
・分類結果から、個人や組織における傾向を把握する



分析が終わったら講習に向けた資料づくりに反映

分析後、自社で事故が多発している場面のヒヤリハット映像を活用して、KYTの実施や危険なシチュエーションを共有するための資料を作成しましょう。この時、衝撃的な映像だけではなく、「日常よくある危険」を確認できる映像や良い運転の映像も資料に盛り込むことがポイントです。

日野自動車は HINO CONNECT で安全運転をサポート

HINO CONNECT 対応車両は、PCS※（ブリクラッシュセーフティシステム）やドライバーモニターが作動した場合、それを検知し、日野からお客様へ直接メールでご連絡します。ドラレコ録画タイミングを特定する際にお役に立ててください。

※PCSはトヨタ自動車（株）の商標です。＊メール送信には一定の条件があります。また、HINO CONNECTご利用にはIDの設定が必要です。＊詳しくは、日野販売会社へご連絡ください。

STEP 3 講習：ドライバー自身に考えてもらう姿勢で

資料にしたドラレコの映像を安全教育の場で活用しましょう。その際のポイントは、講習にあたる人（運行管理者など）が答えを示すのではなく参加型で進め、なるべく「ドライバーに考えてもらう」ことです。

よくある落とし穴

・映像を記録した本人の指導だけにしか使わない ・危険運転や悪い運転の映像しか使わない

有効活用のための実践例

・特定のドライバーの映像を集団での安全指導で共有する
・良い運転は見本として共有し、自分の運転との違いを考えてもらう



ドライバーに考えてもらうために、
運行管理者は以下の留意点を念頭においてリードしましょう。

・ドライバーから「意見を聞く」姿勢で臨む ・意見を否定しない
・伝えるテーマを絞る（例：追突事故防止についてなど）



STEP 4 フォロー：講習内容が運転に反映されているか確認を

定期的に、必ず振り返りを行いましょう。事故の発生件数や重大事故の有無はもちろんのこと、重点テーマとした取り組み（例えば交差点での事故）について事故件数やヒヤリハット件数が減っているかを確認しましょう。なお、データが少ない場合は傾向が見えにくいため、複数年での評価や営業所ごとでの評価など、別のデータも組み合わせで振り返りましょう。

振り返った結果は、ドライバーと必ず共有するように！

例えば事故が減っていた場合、ドライバーに“皆さんの努力のおかげです”というような、ねぎらいの言葉をかけることもモチベーションを高め安全運転を継続してもらうためのポイントになります。

ドラレコによって運転状況を“見える化”
有効活用することで会社を守り、ドライバーを守る！

ドラレコの導入は助成金が交付されます

都道府県トラック協会では、ドラレコを導入する企業に対し費用の一部を助成しています。対象機器や助成額については、所属のトラック協会にお問い合わせください。

[都道府県トラック協会一覧](#)

Q 検索

出典：全日本トラック協会「できることから始めるトラック運送事業者のドライブレコーダ活用 マニュアル」
「トラック運送事業者のドライブレコーダ導入の手引き」
「できることから始めよう！ドライブレコーダ実践セミナー《研修資料》」

ドラレコ活用について、詳しくは

[ドラレコ 活用マニュアル](#)

Q 検索